

MAEBASHI FOCUS

国際交流員 (CIR) ニュースレター

ハウディ、皆さん！

今回のニュースレターでは、「なぜアメリカ、特にテキサス州では、日本のように公共交通機関をもっと利用しないの？」と疑問に思っている方に向けて、その理由についてお話ししたいと思います。



モデルT

実は、その答えにはさまざまな要因が関係しています。そして、私の故郷であるテキサス州のある出来事も、アメリカを「路面電車や鉄道網が広く整備された国」から「自動車に大きく依存する国」へと変えていった過程の一端に関わっているのです！

まず、現在のアメリカと比べると、かつては公共交通機関が非常に広く普及していました。20世紀初頭までには、アメリカの都市部には何万キロメートルもの路面電車の線路が敷かれていました。



ボーモントの石油田

19世紀後半に電気式の路面電車が登場すると、それまで主な移動手段だった徒歩、自転車、馬車に代わり、都市に住む一般のアメリカ人にとって非常に便利な交通手段となりました。しかし、ちょうどその頃、アメリカではもう一つの大きな技術革新が始まっていました。それが、自動車です。

ここで、私の故郷であるテキサス州ボーモントが登場します。

1901年、ボーモントのすぐ南にあるスピンドルトップで石油が発見されました。この発見はテキサスの石油ブームのきっかけとなり、近代的なアメリカの石油産業の発展において重要な役割を果たしました。

その後、Texaco（テキサコ）などの企業が相次いで設立され、地域には油田、製油所、パイプラインなど、石油産業に必要なインフラが急速に整備されていきました。

同じ頃、自動車も次第に実用的で手の届きやすいものになっていきました。1908年にはフォードが「モデルT」を発売し、1913年には有名なベルトコンベア式の流れ作業による組立ラインを導入しました。

大量生産によって自動車の価格は大幅に下がり、より多くのアメリカ人が自動車を所有できるようになりました。

こうして、石油産業と自動車産業は、お互いの成長を後押しする関係になっていきました。石油の生産量が増えれば、より多くの石油製品を供給できるようになります。一方、自動車の普及によってガソリンへの需要も急速に高まりました。

莫大な石油資源を持つテキサスは、こうした新しい「石油を基盤とする経済」の中心地の一つとなっていったのです。自動車が普及するにつれて、アメリカの交通システムも徐々に変化していきました。路面電車は自動車やバスとの競争にさらされ、多くの路面電車網が最終的に廃止・撤去されました。



高速道路の建設

ただし、路面電車が衰退した理由の一つではありません。自動車の普及、道路への投資、バスの柔軟性、そしてアメリカの都市の発展の仕方の変化など、さまざまな要因が関係していました。

その中でも大きな変化の一つが、「郊外化」です。もちろん、自動車が登場するよりずっと前から郊外は存在していました。しかし、第二次世界大戦後になると、郊外の開発が急速に拡大しました。

より多くのアメリカ人が都市の中心部から離れた場所に住むようになると、都市そのものが外側へと広がっていきました。その結果、決められたルートを走る公共交通機関は、多くの人にとって次第に利用しづらいものとなりました。

MAEBASHI FOCUS

国際交流員 (CIR) ニュースレター

そして、ある種の循環が生まれます。

都市が広がれば広がるほど、自動車が必要になります。そして、自動車を利用する人が増えるほど、大規模な公共交通網を維持する必要性や動機が小さくなっていきます。

この流れをさらに加速させたのが、アメリカの「州間高速道路網 (Interstate Highway System)」の建設です。1956年、ドワイト・D・アイゼンハワー大統領は「連邦補助高速道路法 (Federal-Aid Highway Act)」に署名し、全米を結ぶ州間高速道路網の建設が進められることになりました。当初の計画では、およそ約66,000キロメートルの州間高速道路を建設し、全米の都市をつなぐことで、長距離の自動車移動をより容易にすることが目指されました。

では、テキサスの場合はどうだったのでしょうか。

これまで紹介してきたさまざまな要因が、テキサスでは特に強く作用しました。

テキサスの都市は州の石油産業から大きな恩恵を受けましたが、もう一つ大きな特徴がありました。

それは、「土地がたくさんあった」ということです。

以前のニュースレターでも紹介しましたが、テキサスとはにかく広大です。面積は日本のおよそ2倍もあります。

日本では、山が多く、利用できる土地も限られているため、多くの都市部では比較的密度の高い街づくりが行われてきました。

ヒューストンの郊外



一方、テキサスの都市には、比較的安価で開発可能な広大な土地がありました。そのため、都市は上へ高く伸びていくのではなく、外側へどんどん広がっていくことができたのです。

例えば、ヒューストンのような都市は、高層化するよりも、周辺の土地を開発して都市そのものを外へ広げていくことができました。

もちろん、「ボーモントの石油がアメリカの自動車社会を作った」と言ってしまうのは単純化しすぎています。

しかし、私の故郷と、現在テキサス全土で見られる交通システムとの間には、興味深いつながりがあります。

スピンドルトップでの石油発見は、テキサスを石油産業の一大拠点へと成長させるきっかけとなりました。そして、その石油産業の成長は、大量生産される自動車の普及と時期を同じくして進みました。

さらに、安価なガソリン、高速道路の建設、そして郊外化が組み合わさることで、現在のテキサスに多く見られる、広大で自動車に依存した都市が形作られていったのです。

こうして考えてみると、1901年に私の故郷で発見された一つの油田が、最終的にはアメリカ人の現在の移動のあり方にもつながる、より大きな社会の変化の一部だったというのは、とても興味深いことだと思います。

今回のちょっとした歴史のお話を楽しんでもらえたでしょうか？そして、何か新しいことを知っていただけたなら嬉しいです！

スピンドルトップ

